

2019 年 2 月 20 日

**2019 年 2 月 7 日、文部科学省大学入試室様から受領したご質問につきまして**

公益財団法人日本英語検定協会

拝啓

平素よりお世話になっております。

2 月 7 日に私どもにお送りいただきました、文部科学省 大学入試室様よりのご質問事項につきまして、以下、ご回答させていただきます。ご査収の程、宜しくお願い致します。

なお、前提と致しまして、大学入試英語成績提供システムの参加試験であり、且つ 2019 年度実施を予定している英検 CBT について回答をさせていただき、2020 年度については現在も検討中につき未定とさせていただければ幸いです。

宜しく願い申し上げます。

敬具

## 【記】

Q1:  
万が一、試験の実施等における重大なトラブルが発生した場合に、再試験の実施は可能か（特に、各試験における年間の最終回で発生した場合）。再試験においては、検定料を再度徴収するのか。可能でない場合、受験生保護の観点から、どのような対応が考えられるか。

ご回答：

- 従来型の英検では再試験を実施しているが、この度成績提供システムに参加が認められた英検新方式の再試験については現在検討中である。

Q2:  
各試験実施団体の次年度の試験日、試験会場の規模等はいつまでに決定しておく必要があるか。

ご回答：

- 「大学入試英語成績提供システム」に採用された、英検 1 day、および英検 S-Interview については、新方式でもあり、まだ実施しておらず、本件については、現在、鋭意調整中であり、現時点ではお答えしかねることはご理解願いたい。

とはいえ、よりよい精度設計の為の情報提供は、弊社としても、機密情報以外であればできる限りいとわず、例えば決定時期については、年々諸状況により異なり、また機密情報ゆえにお伝えできかねるが、公開時期でいえば、従来型の英検は、通常、前年の秋ごろに試験日と実施日を公開しており、昨年 8 月から実施している、英検 CBT については、各回次（※）の約 3 か月前から半年前に公開している。

※2019 年度においては、英検 CBT は年三回次実施を行う予定で、各回次はそれぞれ 4 か月の実施期間である。英検 CBT は毎月実施していく予定なので、各回次に 4 回の試験日が設定されており、受験者はその中から都合の合う日を選んで申込を行う。

Q3:

ニーズ調査の結果を踏まえた試験会場確保のため、試験実施団体と高等学校あるいは教育委員会でのような調整方法が考えられるか。

ご回答：

- ・ ニーズ調査の結果は、調査時期以降、各大学の採用の可否についての発表等、外部環境が大きく変化していることもあり、現時点において、どこまで正とするかは、各有識者、またマスコミも含めて賛否両論あるのかもしれないが、弊社としては、一つの指標としてたいへん有難く参考にさせていただくものである。また、「大学入試英語成績提供システム」における運用については、高等学校等での実施は、教室監督者だけかえればよいのか、自身の学校で受験できる者と、受験できない者との精神的影響も含めて公平といえるのか、といったご意見も、各有識者やマスコミでもご意見があるようである。

こうした状況を視野に入れ、弊社としては、「大学入試英語成績提供システム」に採用された試験において、英検 CBT については、2019 年度について、高等学校は会場としないことを現状では考えている（変更の可能性有。2020 年度については未定）。また、Q2. の質問のとおり、その他の英検 1 day、また英検 S-Interview（2019 年度については未実施）については、現時点ではまだ検討中であり、ご回答を差し控させていただくことはご了承願いたい。

Q4:

仮に、受験申込後に試験会場の大幅な不足が判明し、かつ試験実施団体において会場の手配が困難である場合にどのような対応を講じるか。

ご回答：

- ・ まず弊会のこれまでの経験則から申し上げさせていただくと、従来型の英検も含めて、過去、弊社で実施してきた各試験において、前年度の受験者状況、また外部環境等も鑑み、受験者数を想定し会場確保に努めており、たいへん有難いことに、これまで大幅な会場不足の前例はあまりない。なおこれ以上の情報については、前述のとおり、機密情報ゆえ情報開示は差し控させていただくことをご了承願いたい。とはいえ、2020 年度から開始される、「大学入試英語成績提供システム」（特例措置は 2019 年度から）については、まったく新しい枠組みであり、弊社としては、前例を踏襲することは考えておらず、会場の手配については、ニーズ調査の結果も踏まえながら現在も慎重に検討を重ねている最中である。

以上